

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕 事 の 内 容	コミュニティバス運行事業（運行事業補助金）					
担当部署・課長名	都市建設部	都市計画	課	計画調整	係	課長名 神山 尚

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	4 - 4	
【施策名】 道路・交通の整備	総合計画書 (ページ)	89	

予算名	款 8 土木費	項 3 都市計画費	目 1 都市計画総務費	事業 6 コミュニティバス等運行事業費
-----	---------	-----------	-------------	---------------------

1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。 市民・市内公共交通網	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標） 市の人口
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 駅や公共施設への移動の利便性が向上する コミュニティバスを持続可能なものとする。	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標） ①乗車人数（延べ乗客数） ②収支率（運行収入／運行経費×100）
	③ そのために何をしましたか。 循環ルートと往復ルートの2ルートとし、2ルート間での乗継が可能で東大和市駅・玉川上水駅に乗り入れることができる運行を行っている。便数は平成28年10月1日から平日・土曜が1日44便、日曜・祝日は1日40便となった。	→	③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標） 年間運行便数

2 指標の推移		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
	対象指標	①の数値	人	85,857	85,698	85,337	/	/
	成果指標	②の数値	人	①133,947 ②28.2	①150,162 ②31.1	①160,145 ②31.9	/	/
	目 標	②の目標値	%	40	40	40	40	40
	目標設定の考え方		東大和市コミュニティバス等運行ガイドラインに定めているため。					
	活動指標	③の数値	便	15,800	15,736	15,732	/	/

3 経費	事業費（実績）		円	50,786,802	49,880,880	51,104,380	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。（退職手当組合負担金、共済費も含む。）
	財源	一般財源	円	50,786,802	49,880,880	51,104,380	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費 (目安)	所要人数(再任用以外)	人	1.0	1.0	1.0	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	8,267,000	8,253,000	8,244,000	
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0		
事業費+人件費		円	59,053,802	58,133,880	59,348,380		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期（開始年度）、何を目的に開始していますか。 H12年1月、多摩都市モノレールの全線開業に伴い、公共交通ネットワークの再編や新たな公共交通機関の導入が強く求められるようになってきた。H13年の規制緩和を契機に乗合バス事業に関する社会的環境は大きく変化した。このため、コミュニティバス導入のための調査を踏まえ、基本計画を策定しH15年2月に事業を開始した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 H21年度、H26年度、H28年度、H29年度にルート、時刻表の見直し、運賃の改定、交通系ICカードの導入を経て現在は循環ルートと往復ルートの2ルートで運行している。

仕 事 の 内 容	コミュニティバス運行事業（運行事業補助金）						
担当部署・課長名	都市建設部	都市計画	課	計画調整	係	課長名	神山 尚

5 市民等 の 意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 便数の増加やシルバーパスの導入等を望む声がある一方、無駄であるという意見も寄せられている。また、ルート変更に関する要望も寄せられている。					
	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）					
6 市民 協 働	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点					
7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容 人件費等の経費が増大しており、運行経費全体額が増える見込みとなっている。					
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 収入増を図るため、パンフレットの戸別配布や各主要施設・医療機関への配布を行った。					
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 経費の増大は避けられないことから、より一層収入を増やし持続可能なものとしていく必要がある。					
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） 利用者層の拡大のために、イベントへの出展などより積極的なPRを行う。広告収入の増を図るため、各医療機関や施設に対してもPRを行う。					
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ターゲットとする対象によって、PR方法を個別に考える必要がある。また、イベントへの出展については主催者及び事業者と事前に調整しPRの仕方を考える必要がある。					
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。					
成果	成果を向上させる。			経費	仕事の経費は維持する。	